

令和3年度第2回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】 令和4年2月22日（火）18時30分～20時00分
- 2 【会議形式】 リモート（会場：高知県庁本庁 1階 正庁ホール）
- 3 【出席者】 協議会委員出席12名、欠席7名、事務局6名、
在宅療養推進課2名、障害福祉課1名、福祉保健所4名
- 4 協議事項
 - (1) 令和3年度の取組実績及び課題について
 - (2) 令和4年度の取組について（日本一の長寿県構想関連事業）
 - (3) 第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画について
 - (4) 「第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画（案）」に対する対応案
- 5 議事の経過の概要
会長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、協議が行われた。

議題

- (1) 令和3年度の取組実績及び課題について
 - ・委員から、嚥下内視鏡検査の実習の対象者についての質問があり、在宅療養推進課から摂食嚥下評価研修を受講し養成された摂食嚥下に対応できる歯科医師が対象であることを説明した。
 - ・委員から、在宅歯科医療連携室整備事業について市町村ごとの相談件数、訪問診療件数を把握しているか質問があり、在宅療養推進課から定期的に市町村ごとでどのような相談があり、どのような対応をされたか実績を伺っていると説明した。また、相談人数を把握し、相談や訪問診療につなげているか質問があり、委員から地域によって状況は異なるが、幡多は市町村と連携し情報交換等行いながら活動ができています。中央、東部は広報活動、PRを行いながら依頼に対応していると発言があった。
 - ・委員から、オーラルフレイル予防複合プログラムについて、高齢者は柔らかいものを食べるイメージがあり、食材を大きく切り、固めに調理をした試食を食べられるか心配だったが、参加者からは日頃から噛みごたえのある食事が必要、口の体操になるといった声があったとの発言があった。
- (2) 令和4年度の取組について（日本一の長寿県構想関連事業）
 - ・委員から、歯周病を有する者の割合が増加している原因は若い時のケア以外にあるかと質問があり、委員から高校卒業後から後期高齢者になるまで歯科健診はなく、働き盛り世代のフォローができていない。高校卒業後、親元を離れ県外に出て一人の生活になると今までとは違った環境の口腔ケアをしていかななくてはならないとの発言があった。

(3) 第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画について

(4) 「第3期高知県歯と口の健康づくり基本計画(案)」に対する対応案

- ・委員から、糖尿病患者のうち歯科医療機関を受診した者の割合について、対象は国保と後期高齢者のみのデータであるか質問があり、事務局から国保と後期高齢者のデータをいただいたと回答した。
- ・委員から、圏域全体でみると国保と後期のみでは母数の割合は50%いかないと思う。社会保険関係にも対象を広げていく考えはあるか質問があり、事務局から今回の計画では国保連合会からいただいたデータを指標に用いると回答した。
- ・委員から社会保険関係者のデータ提供についてできる範囲で協力させていただくとの発言があり、事務局から来年度から計画の進捗管理をしていくなかで協議会でモニタリング指標として社会保険関係者のデータをお示しすると回答した。
- ・委員から、概要版の子どもの歯と口の発達について、口腔機能の獲得のために一番大切なのは、離乳食の段階から食べ方を獲得していくことであり、食べる機能の発達に合わせて離乳食を進めることであるため「子どもの口の発達に応じた食べ方を育み」又は「口の発達に応じた食べ方」といった表現を加えてはどうかとの発言があった。
- ・委員から、概要版の第2期基本計画の評価について、悪化の色もう少しダークな色にするなど改善と悪化の違いを一目で見てわかるような色に変えてはどうかとの発言があった。
- ・委員から、概要版の第2期基本計画の評価について、評価項目の色が改善も悪化も同じ緑色なので悪化の色はもっと危ない色に変更してはどうかとの発言があった。

以上をもって、20時00分に閉会した。